

# わんぱく学園ニュース

平成15年7月 No.96

文月… 「♪ホーホケキョ！」6月初旬 私はうぐいすの鳴き声を耳にしました。「えっ？、何だって！春でもないのに…」と思われた方もいらっしゃると思います。実は私も最初は耳を疑ったのです。そして、鳴き声をする方向にじっ〜と耳をそばたててみました。その美しい声にしばし聞き惚れていました。今までにもこの時期、耳にしていたことかも分かりませんが……。こんなにも新鮮に感じ、私の心を揺さぶったのは――。

うぐいすは、日本語大辞典・広辞苑によると

老（晩）鶯——夏のウグイスのこと。夏になるとウグイスは平地から山地へ移動するが、声がおとろえるということはない。

と記されていました。豊かな自然は、私たちの心をうるおしてくれますよね。ありがたいことに。

さて、5・6月に楽しんだ「わんぱく学園」の遊びのひとこまを紹介します。

## ★わたしの夢！…

「あのね…わたし将来まんが家になりたいの！！ 幼稚園頃から絵好きだった…」

いいですねえ〜夢をそっと語ってくれたのは斐川西中学校2年生の早（き）ちゃん。この日の早ちゃんは、かっこよくベレー帽を被りすっかり芸術家スタイル。その似合うのなんの…バツゲン！ その風貌さから、いえいえ「〜になりたい！」と心に抱いているその内面から滲み出る熱いものに圧倒されそうでした。

そんな早ちゃんへと育ててくれたのは、言うまでもなくご家族の皆さん。小さい時から今まで、早ちゃんを温かく見守り続けていらしたご両親。お母さんは私にこんな話をしてくれました。

「毎日、黙々と絵を描いている姿に、好きだからそれもいいなあ〜」と。早ちゃんのいちずな絵への素敵なお母さんの心が動かし、そんな言葉が生まれたのでしょうか。自分が好きなことに懸命に打ち込み続けるそのパワーは、まわりの人の心をいつしか変えていく原動力となっていることに気づかされました。そんな早ちゃんとの出会いでした。そう言えば、いつだったか榎野良樹副校長ギャラリー“ミチル”へふらっと立ち寄った私に、榎野副校長は、そっ〜と大切に箱から出して見せてくれました。何とそれは早ちゃんが思いのままひと筆書した絵でした。画家榎野副校長の心を動かした程の絵、皆さんも見たいでしょ〜！。わんぱく学園へ来ればご覧になれますよ。

「人間ひとつでいい…好きなことあれば」 それさえない私、

“あ〜今からでも遅くない??自分探しの旅しようかな!”。自分を映し出す『もう一人の自分』を心の中につくって見ませんか!。その可能性を引き出してくれるのも、わんぱく学園ならですよ。

## ★みんなの力で広がった

### みんなの『わんぱく学園』

山陰中央新報6/25(水)付、あの町この村欄ご覧になりました?。平田支局長安部享雄氏に取材していただいたわんぱく学園。ご多忙のところ取材に快く応じて下さった安部支局長氏にまずもって感謝致します。



## 思い思いに 皿や茶わん

平田・わんぱく学園

ハンデイに負けず  
親子で陶芸楽しむ

平田市の「わんぱく学園」の子どもたちが、このほど、同市口手賣町の工房で父兄と陶芸を楽しむた。

参加したのは親子約三十人。陶芸家・安食ひるさんの工房に集まり、もたちは皿や茶わんなどを次々と製作。安食さんが「ひとこと丁寧な文字や絵を書き込み、後日色を付けて焼き上げる。同学園は、同市と斐川町の心とほだの協賛がある子どもたちの親が集まり、一九八八年六月に発足。ハンデイに負けず自ら行動範囲を広げようと、子どもたちは毎週日曜日父兄と週末や平日の活動。斐川町の陶芸家・榎野良樹さんのギャラリーで絵を描いたり、魚釣りをしてたりするなど、仲良く元気に取り組んでいる。

メディア時代の昨今、即刻市内外から反応がありました。

「昭和63年に立ち上げたあのわんぱく学園、まだ活動してたの？」

「いいことしているねえ～」

嬉しい言葉・励ましのメール等10数件いただきました。

さて、この日は安食ひろ校長工房での粘土あそび。「あれえ？、ひろ校長どこにいるのお～」どこにいてもすぐに目に入るあのパーマがよく似合うひろ校長、この日だけは姿を見つけるのに大変！。ひろ工房は、ひと・ヒト・人…平田・斐川・出雲からの友だち、そしてサン・レイク勤務のディメルスさん、カメラマンのフランソアさんなど30名近い人。すっかり国際化したわんぱく学園でした。

立ち上げた15年前「“だれでも、いつでもいいよ。行ってみようかぁ～”“遊びたい人、一緒にあそぼう！”というものが出来たらいいよね」と。あの熱い思いがこの数年前より実現し、老若男女みんなが憩い楽しむ学園となってきつゝあることに感無量です。

夢が具現化出来たのも、ボランティアの方など多くの皆様、とりわけスタート当初から労を惜しまずサポートして下さったスタッフの方々の温かなご支援ご援助の結集であることは、言うまでもありません。

そして雨が降ったとき、一人だけの参加者でも…あるいは一人も来ないときでも…。決して休まず、子どもをただ待ち受けた『わんぱく学園』のやり方。“ハンディをもつ、もたないではないのよ！”。だれもの歓声がこだまし合う“やさしく豊かで元気のある町づくり”。

ある大切な友人が励ましてくれました。「ボチボチ スローリズム、あれがいいのだよ！」と。

たくさんの方々とのつながりや貴重な経験を生かしながら、子どもたちの力にも圧倒されながら、今後もボチボチやっていけたらすごいですよね。飯塚真澄顧問・平田のムツゴロウさんにもお会い出来、嬉しかったのなんの。ムツゴロウさんの冷や奴の差し入れごちそう様！。

◆7月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

7月6・13日	お休みにしました。どうしても都合がつかず…
20日	親子での貝とり(行先小伊津)準備:水着、タオル、ビニール袋、水筒
27日	安食ひろ校長工房で粘土コネコネしてあそぼ!

・集合場所 光人塾前 集合時間9時15分 ※8月のわんぱく学園は地域の諸行事と重なる為休み。